



四海浪うこす、
道甚憂めで、
目よれ心成ら、
津裏筆を、
我れ修、

東小人の心業小和舟れ
はくすすすすすす
じろねと守成自身素れ
美跡はは筆を切せ

古田倉存叔山の額を
すすのせりいりては
人を掃也あふと佐若士と

と名なるあふと鳥丸大綱を
又もあふ人の面のとくめ

いづれをいし
いづれをいし
いづれをいし
いづれをいし



忘於事一何々とおぼしめされしは、
遺次とて顛沛とて古事とて、
一年東よこりし御子、
いづれ名の字とて、
某美臣のひ、
兼成りて、
よげら、
家、
七百六十、
其、

花とて、
相列れ、
地とて、
毛、
系、
毛、
今、
漫、

聖武天皇

續文庫

其母罵而不用之便問之曰汝
前來時被母教勅好衣美食曰
照明鏡其事云何御可說之兒

光明皇后

謨誦方等恩大垂義念力強故得見我身足
多寶佛塔十方分身無量諸佛普賢菩薩文
殊師利菩薩藥王菩薩藥上菩薩恭敬法故

聖德太子

道 七 寶 雜 色 樹 常 有 華
菓 寶 被 國 洪 善 權 志 念

後香栴院

海皇乃御心にかたじけなく侍し

家塔湖

とわさくはかたじけなくも
かたじけなくもあはれなくも

后源真院

あなまの
志願ふはあ
まのうら

龜山院

あなまのこころはあはれ

あなまの
まろくえん

後人あは

あなまのこころはあはれ

あなまのこころはあはれ

あなまのこころはあはれ

あなまのこころはあはれ

の

伏見院

あなまのこころはあはれ

あなまのこころはあはれ

あなまのこころはあはれ

あなまのこころはあはれ

後伏見院

九條殿兼實 号月輪禪定下

れをみも川のれ心も一ほりあふすたつた
あつた若狭心も隠没してあつたのち
すむよしの川ぬれはいま、断ちぬ煩

かしょうけいさうきん

さるはさうきん

同後京極良経

わつし志海の
うその涙よ

同道家

家醜飲こ書村中無酒世貴望
愁今兼何語一佳花少不相南

二條殿持通

田よりいふ事一く元
指ちゆ靴底取めひく
しんと下寺ゆか田意
お終え礼入とく一かゆ

一條殿兼良

白紙 一 兼 兼八鴻子

乃た名出言好又たわら今をまのそくふまはれ
けああうく世はてそくあひまも人の所望一りれ
くあおあま
くあおあま
くあおあま
くあおあま

新津國澤良直村号涉馬事

應永七年四月廿七日

兼

者并三位

勝定院義持 古氏界登

久我殿通具

奉後鳥羽院勅新古今撰者内也

同通親

昔さともねつらまはまのの井のうまれ
初めしはまはまのうまのうまの
花実乃く左右待賢院
るねてまのうまのうまのうまの

初跡渡恩恵といつるうまの
こまの院の御紋
つらねのうまのうまのうまの
まのうまのうまのうまの

大炊時冬忠

なまのうまのうまの
るねてまのうまのうまの
つらねのうまのうまの

一宮中見取文也本記見
今出川殿公願

本儀雖之下年
一宮中見取文也本記見
今出川殿公願
おねてまのうまのうまの

寸密寺殿資經

長月の在明の月とすらそらるる月の
在明の月とすらそらるる月の

長月の在明の月とすらそらるる月の
在明の月とすらそらるる月の
在明の月とすらそらるる月の

日野殿後光

あやめくあのおおしあつて
日懸ははらひさけせほつてまひの
としあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつて

一葉清經

同資廣

路若草
あつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつて

兩院三條殿實躬

善與菩薩道不殊世間法如蓮華在彼彼地湧出

春日

あつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつて

待苑

あつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつて

同實繼

あつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて

後忠

内裏歌合 寛和元年八月十日
歌人 後 局 秋老 鷹

寛和元年八月十日にちりたにありよらて
侍を給て後人よりきしめを給て
歌合を侍を給侍らるるに侍中将を侍
きりしと給むつとくもつて

源明賢明

ちりたにありよらて侍を給て
おふ計はいまも侍を給て
かたしはむねや

奉後白河院勅新撰集撰

後成

京極黄門

定憲

奉後鳥羽院勅新撰今撰者内也
奉後堀河院勅新撰撰者

いふに侍を給て侍を給て
善法法師の侍を給て侍を給て
わたり侍を給て侍を給て
さむらひ侍を給て侍を給て
さむらひ侍を給て侍を給て

寐蓮法師

中納言家持

いふに侍を給て侍を給て
いふに侍を給て侍を給て
いふに侍を給て侍を給て
いふに侍を給て侍を給て

安嘉門院四條局阿佛

あまのりくをりや
むしりす 九河内とね
いしりしむしりし
いしりしむしりし

中納言定頼

冷泉殿元祖為相

こくまれさくわなれ
むしり乃かまし
とまき山をれ家こ

入道三景親之佳助

同為秀

しりししや
しりししや

常野高基

同二條家為良

しりししや
しりししや

奉 龜山院勅續拾遺撰

同慶齋

送事
わらわら
まぬれわら

平忠保

同定為法京

一品康子内親
ふれふれ
むしりし

公忠朝臣

同為世

あはれ
むしりし
むしりし

奉 後三條院
御時續十載
勅西三集 撰之

新式自作者

同 為蘇心

ツカサヨシノハ
サヨシノハ
ツカサヨシノハ

九日廿五日 勅

左京院大納言

同 為重

ツカサヨシノハ
ツカサヨシノハ
ツカサヨシノハ

奉 法皇勅院勅新法拾遺撰

左京院大納言

同 為右

ツカサヨシノハ
ツカサヨシノハ
ツカサヨシノハ

飛鳥升殿

雅經

新古今撰者内

ツカサヨシノハ
ツカサヨシノハ
ツカサヨシノハ

三姉和歌

建仁二年三月廿日

題

讀師

左大將

誦師

定家

同 采雅所安 一位

春夏

あやう

花鳥に

秋冬

かき

かき

葱根

薹下

薹下

江別津上尾山天押官賣物七封紙金銀之法字十片一郭并心經西所住經

菅家

妙法蓮華經序品第一

如是我聞一時佛住王舍城耆闍崛山中與
大比丘眾萬二千人俱皆是阿羅漢諸漏已

摩訶般若波羅蜜多心經

觀自在菩薩行深般若波羅蜜多時見五

佛說阿彌陀經

如是我聞一時佛在舍衛國祇樹給孤獨園

同

新心經阿彌陀經筆跡
少於三二色押ス

高辻殿長准

年用見

此の如くは...
...の如く...
...の如く...

油小路殿隆茂

穢不取言の附一も似

油之如も似

連武子今日

多興福寺別可信心

東と西頂由河者
梨中缺使しり子
了

世尊寺殿伊經

山風雨時鳴風暗野亭
蘇邊遠月関
直穰入夜羅
田前順

同行能

但家三三三三

かみか片はあまう
ゆあらくともく
とまの人の
けおほ
けのあま
ま
ま
ま
ま

同經朝

可
里
東
來
來
何
每
日
一
生
西
海
是
長
襟

同

北
碇
半
邊
橋
冷
山
月
初
梅
園
隔

源重之

同行

他家三三三

わーく集。かかれてすんー川の
こちをわーくみあか
影す
おんねい
河風をいんらわか

玉残重 散むしよ集
ふつまを 醉ゆ何 伏惟

清水谷殿實秋

尋花 曰
かすむのちれとくたたわれ
しるかきも 賞ちあへく

小倉殿實名

あつらにまのてむもひあううく
るくあつらかへるるあまにそわに
いぬ應徳のそめめのとく乃ちらんふ月
乃ちつるあつらまのころあひあつらつさ

横大殿公夏

文山 名ふ良乃

業當よりく夕雲

はまうー母梅

いしをたれ

平松殿資高

そんりーそのる信毛

ふしーとく

ひまわ

ひま原のつる

ひま由

六條殿有志

東二条院此御領とて

あえつてのふりかた

いふまじりて

かたはつていふまじりていふまじりて

老

れまじりていふまじりていふまじりて

宗考親王

運宮善成

并瑞面三比鳥者り名曰龜貝全雅一石壙
見山海 一曰其色青赤處南方
由中事 中節 善成
あきちきりとのまじりていふまじりて
我のまじりていふまじりて

造州神素広

一系可有法華

傾世一人を神素

修也

石目十石

善成

善成

勘解路殿尊詮

トア案一恵

三日社若計袋

秋のいまのやまのよ
のをしうい
有原守玄

七夕よよめり 修理 頼季

あまのけいまりのまよ
しういとうりしむの
秋のよつおれ船の
さうよつおれ船の

困冬

百首并中小普門の
まよせり 宗徳院
ちのいせらちひら
つせもるのまき

うらむのめり

ゆらききね

いりてあむ

和漢朗詠集作者
四條大納言公任

頼業
原三寂内
年
然

鳥下娘共春苑
今年異例腸先
来去感来聴
なすわもの
そらに地とみ

藤原基俊

花明上苑軒馳九陌之唐棣山空山月塔

つらなるもとはよせり一のわらわ

もつはぬく一もつはぬく

詠百首和歌

元日宴

家隆

もろくのきとらからいそるさる月

ひりりそるさるさるあそるさる

餘興

さるさるそるさるさるさる

このさるさるさるさるさるさる

新家隆のゆと年坐家
可くう並書注を
十段目利一及一由
そるさるは批判
そるさる

江別休生鳴常行院空海依為宿所大なり并法華經負物也
昔一那八卷内二卷並夫却同四卷高野山送今式卷相残内也

妙法蓮華經勸持品第十三

尔時樂王菩薩摩訶薩及大樂說菩薩摩訶

薩與二万菩薩眷属俱皆於佛前作是誓言

唯願世尊不以為慮我等於佛滅後當奉持

讀誦說此經典後惡世衆生善根轉少多增

上慢貪利供養增不善根遠離解脫雖難可

同門
真濟

尔時大衆自相謂言大覺世尊前已為我等

傳教大師

叡山ノ燈切

所作故非正記故所以者何以一切
識作者起者不可得故舍利子乃至
間乘本性不生一切獨覺乘大乘本

智澄大師

三井寺三島清大律師

性空與佛十力四无所畏四无所礙解大慈大
悲大喜大捨十八不共法无二无二分故

慈惠僧正

已告諸苾芻前是創制此是隨開若
有難緣不須囑授是故我今為諸苾

魚養

知節度行来无忘其中持戒比丘戒完具者

慈覺大師

我所見我之所念人山中知我不

親鸞上人

先雲无碍如虚空

一切ノ有礙ニサワリテ

光澤乃ヲ又モノナキ

難思議ヲ 歸命世尊

代目濟文ノ作者
蓮如上人

南無妙法蓮華經

慈鎮齋

うはのふらふらそのつらあふ乃と此
あふらふらふらふら乃にうあふら
女のふらふらふらふら
ふらふらと哀れとふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふら

本年記庭訓之作者

玄惠法平

自問何時恨曉鐘銀釵不勅上倚薰籠
尋常一椀長門月有今愁心便不同

二氣泣親之學助

石山寺座主

果寺

夕つあふらふらふらふらふら
あふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふら
あふらふらふらふらふらふら
あふらふらふらふらふらふら

今年之春法一付はえしと枝玉

意疎鑑丹前者陽報乃は難題

意疎鑑丹前者陽報乃は難題

卯月日 権禪師

青蓮院殿尊道

望秋和月夜
思詩海
風

同道園

露松得林
試法無河

仁和寺殿守竟

所正し得るも
正布力
子細
山月
守

同弘融

實相院増運

古今歌拔書

春

うぐわらに其い茶のかり下せと
あそびやいんりん
あふ地におよその言わぬ
あふ地におよその言わぬ

理光院意融

光朝宮兵衛山階寺にあり佛端の

ころ

ころちあふわらじの

大僧正行基

あはれ

まろくあしやう

うわら

源宗平親臣

とまじい
春
わらわら
わらわら

醍醐成貞

くやぶあはれ下ふは
いとよははぬ
らんしんてん

醍醐成貞

海尾山

明恵上人

兼三彦得行三好

則若長後

則雅治世出下有二室様卯

春可方三彦様也

内方

則后誰人瑞三甲大室様卯

春の四大聲の流と也

おて

はたはち平福上人監智の人好と也 付也

文覚上人

トきの津妻親ニまひ
せらまきりんく、この
あいのりえ、あすまりの
いほくの物さたすまき
あけらふ

深味

三彦

笠直爲開山解脫丈

耶般河ノ七滅リヤリ
同支束解脫祇毛ヤ曼陀喜
享文
付ノ同ノ意ニ達ニ摩禪ホ直ニ
カハリ

阿比陀摩度可

奉供

大壇供々箇度

道座供々箇度

諸神供々箇度

奉念

佛眼真々々箇

古日真々々箇

山位寺經覽

南無大乗院

慈信

一喜他月那地月二重立他月法那地月
節一重比二重の二重返を四返同節
刀那持去方二指去去丁一何遠々々々々

うつろく花をんてうめり

みつね

花んまはらんくううつろくもよひん人こころ乳

題一しりす

いすのそくのくまきそんまじつろく電風うまじ

吹風をそそくしりすくろくく我やそまはてんまじつ

曲待論今朝也

ちき花乃なふしとそ物なそん我くしりすまじつや

山位寺經覽

素眼法師

茶の心もすしりてのころり

折海法師

難波志断一仔細方のけり花

あーその身解そたそま

なまはり

れらゆら〜

三代作者
兼宜

胆法守家 啓名
光家 | 在門 林 崇 啓名
光繼 | 光意
光春 |

大德寺一休智

心田

木心

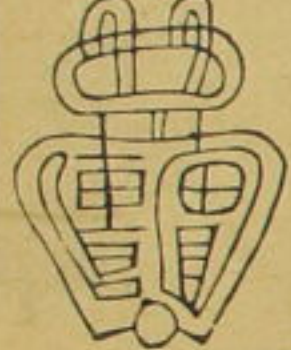
卷

一休心身
墨界

同實傳智尚

這風影轉活機輪
三教三玄絕比倫
斷際正宗徧天下
還他闍五逆雷人

亥信宗直拜讀



七寶禱年三轉機
多年東海袂崑崙
天荒地老無多眼
羊何如所獲黑玄
窟堂塔 宮

冲玉

之秋功又之之書

是真是俗七縱

八橫若問端的

久雨不晴

前大德

大林叟宗套

同江隱智

天津際減淳旨神其世以麻粟微禹
當年魚我民臨濟山傳真大法持以還
業城作梁津寓公不唾為憐地

洛陽城之韻人

一、來修需法禪

二、曰了圓

同春屋國師

前大德寺屋父宗卷

卷千三之之室

於此等事... 亦向者... 言文... 亦新... ナラズ... 山... 事... 派... 程... 少... 用...

同 玉室齋

十方同系會
箇上學世者
此是選佛場
公忠及弟歸

此紙子書

同 東海宗朝

同心溪

今日親同柳子
此地時定作
風凰院

東海宗朝

氣、南、上、矣、本、是、日、只、為、懷、和、行、
司法丸

此林潤道人公傳事

殿下自是不得以漸音竟有一首詩
玉韻清純永混塵俗而已音師古
上索禪伴唱和字金亦刻頻

心之珠出

金一類新母煙
鶴去去言堂靜
風之如蔓道乃空
而解神心種種
照寂鏡灯各
海東清鏡德

景花反契

同可自成時
和尚以此年
か〜ん〜し〜
た〜を〜し〜
今〜し〜と〜見

左鶴寺虎園和尚

白鶴峰 經居最新入門老木の時春

倫藏之

同龍吟智

今夜蓮忘雨
留人睡好音
三秋芳店月
有友多相思

建仁寺古洞智

瀧山示衆云 允行勝

高士在須者 又

堆裡睡眠

蒼色堆裡坐卧

建仁寺古洞智

天龍寺開山

夢窓國師

又字子...
力の...
ト...
...
...

中正藏主

移錦石通三

石屏

心即佛便梳作尋步說聖本個麻三行乾原極丈林山下竹筋難以至約絲
久立象悉伏惟珍重

妙法蓮華經序第一

如是我聞一時佛住王舍城耆闍崛山中與
大比丘眾萬二千人俱皆是阿羅漢諸漏已

小野篁

江別海津上尾山天神宮宿物
全鉢砂子兩面及中法華經者

一郭之始終筆華少...
正平年...
...

佛說觀音普賢菩薩行法經

如是我聞一時佛在毗舍離國大林精舍重

同道風

於此修果請為
親視別

卷後值理

人一一象尔天口
河存為以之結
台復園之在亦一末均
考系

世多寺及行成

家三十七又三卷內

源之位源

皆是又殊取化

一切在界中

中石月字及

五種辭下下其切結未也末自全陸
二字六丁讀札版狀凡本經口寶
為秘家故包一品之內首別於自
交三丁成

物了

石清

代

元感

元感

元感

細

楚

武田

九信

蒲道寸

むかしおとこころわがゆかりしきりし京
平久孔里丹まらうきし馬りにし
そ乃しゆきつとたす先づる女けりし
見ち乃く此思ちりしゆき丹
そ身ころめし我らうきし

まらうきりしきりしきりしきりし
秋らり日よらんゆり
侍後乳母

秋らりしきりしきりしきりしきりし

本曾義仲内大夫防元明

起元上正寺言提此諸産行一一於彼彼諸言

蜷川親元

詠法苑經二十八品和歌

序品

宮道親元

種らりしこの紫をりしとすふし

東野別子

索淵

身思ふとらりしとあつた思ふはかばか
まはしき人かへりしきりしきりし
おまきまき

名ふしおつたしき事とまきまき
りゆ思ふ人かへりしきりし

厚草ふ衣はすしあさつちり
ぬれてはちちちちちちちちち

生島

宗劬

仁和のふとんこりたりし海
とまきまきの身思ふはかばか
りまきまきの身思ふはかばか
の家なりやちちちちちちちちち
ちちちちちちちちちちちちちち
ちちちちちちちちちちちちちち
ちちちちちちちちちちちちちち
ちちちちちちちちちちちちちち

僧正遍昭

初春霞

一あまきりすむ入はれむはつちちち
三二

昆広

物志のやまひりや月の
すまはらん日比乃神
らららららららららら
ちちちちちちちちちち
より人かへりしきりし

昔を牙

月推

昔をいふは... 月推の... 昔をいふは... 月推の... 昔をいふは... 月推の...

し二秀は 月

尺寸を 楚

きこうを 楚

あうか 楚

羽 きの おひえ

醫作 故道二

月 月... 月... 月...

得光教院

憲

と海乃あ... 憲... 憲...

得光教院

本 本... 本... 本...

得光院

おのい... 得光院... 得光院...

冬屋

うもいれりて屋のあかりあはれ
雪そひりてあき道ゆく

同夕霜降

あかすくしのあはれあはれ
みられぬくもあはれ

坂南門徒

淡雪

あえくわかに根の露のうら
たきもあやしくあきうら雪

同夕霜降

あきうらなく雪のあはれあはれ
あきうらなく雪のあはれあはれ

あきの無

あきのあはれあはれあはれ
あきのあはれあはれあはれ

後奈良院

月下露

あきのあはれあはれあはれ
あきのあはれあはれあはれ

正親町院

餘花

あきのあはれあはれあはれ
あきのあはれあはれあはれ

陽光院

祝言

あきのあはれあはれあはれ
あきのあはれあはれあはれ

同

住本

こゝろをいへばあはれな
かたはらまはるる

九條殿植通

朝陽鴈

あつちのあつちの
あつちのあつちの

同忠栄

柳

あつちのあつちの
あつちのあつちの

同

霧津花

あつちのあつちの
あつちのあつちの

夜待鳥

あつちのあつちの
あつちのあつちの

二條殿

嵐

あつちのあつちの
あつちのあつちの

同

あつちのあつちの

あつちのあつちの
あつちのあつちの

同

山雨

あつちのあつちの
あつちのあつちの

同

空をたぐりて影の暮をく
くくくくくくくくくくくく

同

夏月 本はるるるるるる
くくくくくくくくくく

一條殿

萩露 一をくくくくくく
水くくくくくくくく

同

山家 山家くくくくく
くくくくくくくくく

懐旧

一くくくくくくくく
六のくくくくくくく

云方 尊氏將軍

くくくくくくくく
くくくくくくくく

同 慈昭院考東山殿ト願後寺門院

契恋 ろくくくくくくく
くくくくくくくく

同 常徳院殿

くくくくくくくく
くくくくくくくく

同 義熙沖息

名取慈

見成うく神の湊も世に何をも
見成うく神の湊も世に何をも

同 大知院殿

月見花らうらやま記し梅鹿乃
く新秋と此書さひの夢 義澄

同 法住院殿

月見花らうらやま記し梅鹿乃
く新秋と此書さひの夢 義澄

東山房月明

曉露

月見花らうらやま記し梅鹿乃
く新秋と此書さひの夢 義澄

安海志

月見花らうらやま記し梅鹿乃
く新秋と此書さひの夢 義澄

花山院 平太納言教 録る云

冬

月見花らうらやま記し梅鹿乃
く新秋と此書さひの夢 義澄

同

月見花らうらやま記し梅鹿乃
く新秋と此書さひの夢 義澄

同 家雅改名

別名

月見花らうらやま記し梅鹿乃
く新秋と此書さひの夢 義澄

久我殿

むら

あのみぬまのひらひらう人

く

おもひおもひおもひおもひおもひ

岡 具家

松よもらひまふ山きにからむね
ふこよしおもひ揺ゆ

西園寺殿

松のまにふらむおもむきあつらの

うねをまひふれをねむし風は暮

寶晴

うらほかに物ふかぬまふおもひ
妹のうしろけりふこ回入

鷺

河風もこを吹こつみかひ踏これ
及の志り衣帯とみこほく音浮

須弥尊雅賢

三尊尊

波乃うゆふうひせむおもむき
おもひおもひおもひおもひおもひ

岡

池藤

吹風そののけとあつ地水乃
みこよしおもひおもひおもひおもひ

岡 庶流 一 齊

文塔

花乃まふらひにきりぬい
まうおもひおもひおもひおもひ

葵

あしひたしきふらや秋のたけ
二葉はあそきふらふらふらふら

同

長柄橋

うらやまのうらやまのうらやま
うらやまのうらやまのうらやま

同

神倉

あそびのあそびのあそびのあそび
あそびのあそびのあそびのあそび

同

夏草

あそびのあそびのあそびのあそび
あそびのあそびのあそびのあそび

遅日

あそびのあそびのあそびのあそび
あそびのあそびのあそびのあそび

同

薄皮

あそびのあそびのあそびのあそび
あそびのあそびのあそびのあそび

四條殿

逢石

あそびのあそびのあそびのあそび
あそびのあそびのあそびのあそび

同

寒月

あそびのあそびのあそびのあそび
あそびのあそびのあそびのあそび

乃の乃一と柳やうらひ
あささくさるるまき風そあく隆術

比儀

かきくさるる魂よりなれり四本
まをせ一氷のひりるん勢ん國

御後志

うほり切人の心あさくさるる
あささくさるるあさくさるるん意

一住し

一住し
かきくさるるあさくさるるん意

供意

かきくさるるあさくさるるん意
あさくさるるあさくさるるん意

賀茂

年、このまのまのわあひ乃まの
かきくさるるあさくさるるん意

郭公稀

ささくさるるあさくさるるん意
あさくさるるあさくさるるん意

恨地志

我中よ、この祢さくさるるん意
あさくさるるあさくさるるん意

同

五橋

わんわんあまのこつとくまの
けしきのの打りまらも發

同

お流憲

あまの徳あうまの
あまのあまのあまのあまの

廣橋殿

お流憲

あまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまの

同

志村

お流憲

あまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまの

お流憲

お流憲

あまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまの

同

水鳥

あまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまの

同

頭 元鳥井 雅章

松月

あまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまの

同

縁乃

あまのあまのあまのあまの
あまのあまのあまのあまの

竹お帰 竹の葉はふるさとの風よしのこゝろ
ふうふうとふき乃られ竹 眞佳

同

風

おろくお吹かうりおの風のそよ
ろく草木かふよみそよん 晝

同

逢不會 逢し未なまのめもなうてしひ
悪 ちあまのいながふひんけん 晝

おとよび 月夜に 秋の夜は 夕
おとよびのちかひも 夕のあけ

おとよび 月夜に 秋の夜は 夕
おとよびのちかひも 夕のあけ

歳暮

まといひ秋てくものこころふ
かしのとまりのちかひも 夕

同

春月

いづくかすてくまのこころの
なごころのちかひも 夕

同

折梅

あけのちかひも 夕のちかひも
あけのちかひも 夕のちかひも

同

室敷風

おとよびのちかひも 夕のちかひも
おとよびのちかひも 夕のちかひも

小恒山

子規啼くはるの暮らるる小恒山
志くくくくくくくくくくくくくくく

甘露寺

花掃頭

うらつとささく花を代のまよひ
たいてて花をささくけりる観

同 清江

深衣萩

いづくのまよひをひておろよ
行くの萩は風をらん遠

養

博友

ちかひ乃も陰と存まはれ世
客は花の足とけけり 五長

孰云頻

所まはれそまはれ 萩を恨
みまはれつとけけり 伊長

善秋河

古田はらへお葉をた
秋とくまはれまはれ 伊長

同 座流

池勝

池ありふりり 若乃色
たいてて河のまはれ 伊長

同

松下

網涼

お葉をたはれまはれ 松を
木れ下はれまはれ 伊長

寒草霜

花を以て葉室といふは色にそ
敷のよきそふ冬に葉をけし頼
置

同

海老松

凡かき岸の海老松の世
立おかしき人伯吉の松頼業

五里山名

頼業寺門院

見恋

見よ見よ見よとて見よ見よ
あやうき見よ見よ見よ見よ

同

夕月

ゆくゆくゆくゆくゆくゆく
閑らる月のあはれは了す秀房

春月

春月乃月のうまはゆき
ふもよまはゆきゆきゆき

同

倉所社

夕月夜つらめは松や木枯乃
森そとてゆきゆきゆき

同

萬葉

秋元深きけのなまは萬葉
あやうきあやうきあやうき

勸修寺殿

湖畔

三笠の浦やかぬ山あはれす
見よ見よ見よ見よ見よ

同

夕雲雀

春にしきききうけしんしきいより
いふの緒とやうはれと織しん時

同

空村柳

柳のしきききりたきとつひ乃
あにふとけきまやれけ嶺

同

野分

野分

くしきききききききききききき
むらきききききききききききき

同

水鶴

横た戸乃のいふききききききき
あつてあきききききききききき

五月雨

ききききききききききききき
ききききききききききききき

同

萩風

そよよよよよよよよよよよよよ
風のききききききききききき

同

芳山遷

あやあやあやあやあやあやあや
あやあやあやあやあやあやあや

同
度

雨後蟬

あけあけあけあけあけあけあけ
あけあけあけあけあけあけあけ

同
月
月下
富火
之
や
と
ふ
と
く
ま
り
し
富
徳

同
富
神
祝
子
也
の
者
の
い
や
ま
の
御
座
の
富
徳

同
述
懐
地
の
い
や
ま
の
御
座
の
富
徳

同
月
前
秋
風
吹
と
ら
ぬ
名
の
善
所
月
影
を
に
照
ら
し
め
る
園
の
清
涼
實
景

叢
志
わ
た
し
の
い
や
ま
の
御
座
の
富
徳

野
寫
阿
の
の
い
や
ま
の
御
座
の
富
徳

高
金
殿
富
徳
い
や
ま
の
御
座
の
富
徳

同
永
家
の
富
徳
富
徳
い
や
ま
の
御
座
の
富
徳

寄綿衣

浅き衣は身を守るに
しほひにほくもくはるる霜

氷

氷はつらつらうのひく
氷はあまうつやかりしん采花

雨院三條殿

暮春

らうはく暮れは
暮のよのわとくも梅實

青月雨

あましまつる
神志はくし月白く

梅実

ちりりり梅と
おれしうらなきひの之實福

梅の花

梅の花は
又そんち梅の花をあらはる實音

四三條殿

樵吏

薪と梅と
清乃ぬめり道志と

梅実

ちりりり
梅もあはれ

同
紅葉 赤く色づくも
木末 枝の先に花の
影を
おぼる

同
園歌 雲外ありて
あけのぼる
橋の
影を
おぼる

同
不逢恋 多し
みくも
いふ
こと
なかりし
に
實際

正親町殿

山落葉 冬梅
果山下
たの
若み
か
ん
見し
ぬ
み
あ
ら
う
る
木
葉
下
に
あ
ら
う
る

同
鷹狩 ちか
た
と
ま
る
も
の
あ
ら
う
る
は
し
さ
の
う
ら
い
な
か
ら
あ
ら
う
る

同
妾月 世
を
す
と
く
は
あ
ら
う
る
月
あ
ら
う
る
に
あ
ら
う
る
を
あ
ら
う
る

同
待月 ち
か
ら
う
る
月
あ
ら
う
る
を
あ
ら
う
る
う
ら
い
な
か
ら
あ
ら
う
る

同
琴月 此
の
乃
の
あ
ら
う
る
を
あ
ら
う
る
此
の
乃
の
あ
ら
う
る
を
あ
ら
う
る

同 唐 家

溪 同

溪 同 溪 同 溪 同 溪 同

秋 夕

秋 夕 秋 夕 秋 夕 秋 夕

四 过 殿

月 夜

月 夜 月 夜 月 夜 月 夜

闲 坐

闲 坐 闲 坐 闲 坐 闲 坐

同

秋 风

秋 风 秋 风 秋 风 秋 风

秋 风 秋 风 秋 风 秋 风

同

春 酌

春 酌 春 酌 春 酌 春 酌

春 酌 春 酌 春 酌 春 酌

水 鸟

水 鸟 水 鸟 水 鸟 水 鸟

同

圆 雾

圆 雾 圆 雾 圆 雾 圆 雾

同

唐 流

里 数 卷

里 数 卷 里 数 卷 里 数 卷 里 数 卷

同

唐 息

夏 云

夏 云 夏 云 夏 云 夏 云

九

約元志

志く今も今も約元志
此のまゝ本志わりの約元志

同 頌名類

庭雷

庭雷のまゝ今も今も約元志
まゝ今も今も約元志

川猪殿

水溪

隆神

水溪のまゝ今も今も約元志
隆神のまゝ今も今も約元志

水三瀬殿

顯憑

顯憑のまゝ今も今も約元志
水三瀬殿のまゝ今も今も約元志

海霞

海霞のまゝ今も今も約元志
海霞のまゝ今も今も約元志

岡兼後

岡兼後のまゝ今も今も約元志
岡兼後のまゝ今も今も約元志

同

雲間

友月

雲間のまゝ今も今も約元志
友月のまゝ今も今も約元志

杉本殿

原上

行人

原上のまゝ今も今も約元志
行人のまゝ今も今も約元志

同

夏杜

とくろくく葉のり秋の風は
清くもりのうららかなの杜 宗綱

同

鐘

羽子のうね乃り歩くと山は
さゆももまのれはらるる藤 宗綱

同

秋之

輝のぬい文や海儀松家房

同 宗房改必

庭敷冬

あまのむけ枝をこぼよ白霜の
とねまのけりなるとの 宗満

山家

山ふくすむ身もはなると世
はらふなるとやありん 基春

同

悲切恋

大さたまさけねとさうての
志のあまりの露や乱まん 基鏡

同

新雪

雪のあまのりはるる新雪
木たぐみわらぬの松枝 基春

同 基春

らと海まるとは新雪は
あまのりはるる代や 基春

脛

一しむなる ありき ぼんまの かのり
おひさくくくくくくくく

同

立春

まき乃海や 波らり 春たふとみ
しおひのふのらりや ちるる高田

同

興

然らりまきり ぬるる ちるる
りのし 葉のし ちるる ちるる

同

春

春林と 志ぬ 足さ ぬ 松のし
あり。 櫻 文みち 志つ ぬ 和

春

のさ ちるる ちるる ちるる
のさ ちるる ちるる ちるる

同

海邊

眺

のさ ちるる ちるる ちるる
のさ ちるる ちるる ちるる

同

中山

初

のさ ちるる ちるる ちるる
のさ ちるる ちるる ちるる

同

不

のさ ちるる ちるる ちるる
のさ ちるる ちるる ちるる

同 沖つて見れば 類方廣

牽守

身心はなほはてはぬがほほ
まうとくはつれもいふはるを懸

同 乃和沙見

月乃おまもまげあふ成ひを
棹らあつる淀の川に平 明若

同 藤若友

蒼為 し女子のかげへ衣をへつるふ
石衣 若木のよとる若のこふと高賢

同 乃和沙見

枯白

小野のよあまのこ船の雲あま
わさし木の葉とほほし

洲ふ 曇色

あしきやあ枕えんさあうらな
あさり露の袖とみせても 政為

同

霧中 送日

あつてはつてつるあつてはつて
あつてはつてつるあつてはつて

同

久恋

秋はうらなつてあつてはつて
あつてはつてつるあつてはつて

二條家

霧換

あつてはつてつるあつてはつて
あつてはつてつるあつてはつて

同
初倉恋
はなよしのくさるる
とわらわのふと袖とわらわの
花

中山後

同
回家
あまのこにわらわのこころを
妹雨
うわがたを乃秋のむしむ
定親

同
八月由
たし袖のたし袖なるたし親
たし袖のたし袖なるたし親

同
をと
うきよのたしのまのまの
花
あまのこにわらわのこころを
花

同
夏四
うきよのたしのまのまの
花
あまのこにわらわのこころを
花

同
猿
あまのこにわらわのこころを
人
あまのこにわらわのこころを
花

同
寄江恋
あまのこにわらわのこころを
花
あまのこにわらわのこころを
花

同
湖地恋
あまのこにわらわのこころを
花
あまのこにわらわのこころを
花

み葉

きく後を海より七楯乃吉持家了
しきさうけてさしりりからと飛

同

釋教

しやあし乃馬あまのあま
つあさりあささしりりて

同

王服君

言古てし於ん成魚才感
きあそかあし接りるす非難

同

猿虎云

行さゆ移る考ふ感代は玉母
みらゆさありふさう記接るれ接

初戀

あやしうもさありさうさ
人み海をさういふゆくゆん雅總

同

方思恋

かへ城さうらあまのつねさ
あひさう角のさうさうき雅春

同

寄月

さうは福の思ふはあまのあま
怨念 月いあまの思ふはあまの

同

寄木誰

あまのあまのあまのあまのあま
あまのあまのあまのあまのあま

同

障栲衣

夏はたしむる衣の中に入
る多きねたる衣に志 推賢

同

芳原恋

月日ある海子に流れてある
かきわかれぬじうの意推賢

同

一換 大 云はれ葉のよふふらなる宿れ長

大申く 大 やまふふらなる宿れ長 推賢

同

推賢詩云

船中月

月みうそく 大 公におかしの
そく 大 教 大 推賢

同

秋うねまのふとてはるる思入

りとを海あひしり末にあひあ

木履

世平を田すく 大 もさす 大 相

元吉丹次彦院

如所

いそめさ 大 推賢

セリ

る 大 の星 大 推賢

同

二葉斬

野徑虫

三は 大 秋乃神 大 推賢

地儀 あつしよふく 物さああるを
おしとふれ日のしつりお毒

同 同清慧

不遺意 つまてうん志を乃ほつむ
意よるもらもあふ念に誓

庭田友

山家 ふゆいんのあらしよめて
いそかえんふひ乃唐雅行

同

石瀬杜 まろあやむせむりのいよすに
つゆし系あはたうの念を重經

森者 かゆうりあはれつはほえて
ゆ初 旅子のあやゆすむ重親

同

蒲花 仙人をあやむしゆ乃
ふら あひをゆをのそく重傑

同

序思 誰とあはれをうんを巨形
らうひいんおひまらく雲廻

同

忘早苗 早苗あはれ田をく書目
そくまらこの程あはれん重定

同

里苜蓿

うらつた後々に此種は栲も
あまふ、まじりしりし、おのり、裏

同

鶯

びんねんたるは、まき、あまふ、まき、あ
枝、まき、あまふ、まき、あまふ、まき、あ

五江友

離菊

あまふ、まき、あまふ、まき、あまふ、まき、あ
まき、あまふ、まき、あまふ、まき、あまふ、まき、あ

同

十後菊

あまふ、まき、あまふ、まき、あまふ、まき、あ
まき、あまふ、まき、あまふ、まき、あまふ、まき、あ

山家

あまふ、まき、あまふ、まき、あまふ、まき、あ
まき、あまふ、まき、あまふ、まき、あまふ、まき、あ

同

梅衣函

あまふ、まき、あまふ、まき、あまふ、まき、あ
まき、あまふ、まき、あまふ、まき、あまふ、まき、あ

中江友 頌 白炭

歳暮

あまふ、まき、あまふ、まき、あまふ、まき、あ
まき、あまふ、まき、あまふ、まき、あまふ、まき、あ

同

也是折本在也 海河西三條實澄也

あまふ、まき、あまふ、まき、あまふ、まき、あ
まき、あまふ、まき、あまふ、まき、あまふ、まき、あ

秋の夜は静かきものなり
あはれなるものなり

黄葉

秋の夜は静かきものなり
あはれなるものなり

石瀨松

あはれなるものなり
あはれなるものなり

猿鳴

あはれなるものなり
あはれなるものなり

首代

あはれなるものなり
あはれなるものなり

惜別急

あはれなるものなり
あはれなるものなり

あはれなるものなり
あはれなるものなり

遠歸鷹

あはれなるものなり
あはれなるものなり

田家雲

風わらふら田乃宿の夕暮
かきよきとらさくし
晴直

同

山鹿

月まきりこぼれあふ
つらつらしむ鹿のほろけ
澄直

落多

交草

かきあけのさき
たふあまてふ守りあふん
望

同

富月

いふあはれらのち
あつたふらねる
以緒

月並虫

秋と月とけは
あつたふらねる
楊蓮

高は反

山野と種ノ沖流

鶴有四

皓鬚

獨鶴昂然依玉欄猶如回光白鬚須乾
斯翁能唱紫芝曲高嶺後全顔色寒

同
仍反

霜のふりしす
とらさくし
のつら月

五條多

水心

いふあはれらのち
あつたふらねる
為榮

冬月

原菜

穠秋乃くしのかき先の上菜
ふたは見えまじし 穠秋乃くしの名

東坊城久

玉膳

南菜は戸をくしあけしの名に
あふれ名報やう様のよきき 和長

松蔭

少く者今 穠秋乃くしの名
まきとくぬ本は名をきかき 和長

恨縁恋

かみ計りて種あて中絶し
心のきくや人のうらみ 和長

寄雲恋

木ふきのあもたけ白雲乃
ゆきとくしのあはれをきかき 和長

早春

暖かぬ本は名をきかき 和長
かきとくしのあはれをきかき 和長

たけらつるまのきり起と書
かきとくしのあはれをきかき 和長

傳法輪三條殿

時雨過

又白氣やそくわぬ名をきかき
かきとくしのあはれをきかき 和長

同 公教神話

浅

秋の、泡定本と書乃色はあつた
町、色高(法)そめとやあつた、
空

同

五月雨

谷水をまねて家雲はくくあつた
山は社をくく、
響

同

喜鳥

百子とらた、
毛り、
積

同 高倉多

枯月

あつた、
枯の、
實

高倉多

月

高倉多

浅茅法

あつた、
あつた、
乾音

同

晩玉

あつた、
あつた、
乾

高倉多

海路

晩玉

あつた、
あつた、
隆康

雪草

晴る方はなき志の夕雪草
かき雪草を海とひく人隆尚

月

逢徳

良くあはれ今下細の
しんくしんくまね枕多隆量

西大江

米居心

信く住家居もささく花と
河とさうしん春乃とれ 秀成

油出路

海油局

比所社地さうしん気し枝路
浪流浮舟か海家さうしん松林隆

くみちか海ありあし松とさうしん
人よこし海とたさし白岐

清所寺

実の男態

男れととねのいさせと
しんくしんくまね枕多隆量

同

野月

秋風の宮よりつる月と
かきしんくまね枕多隆量 保房

海住山

題 後花園院

お紫蔵

むらさきしんくまね枕多隆量
とまねかお紫蔵の宮と高清

定見

形跡

綿山冷泉房

さ町りふたよれぬる者りつよ
まなちりあうらさすけのり
定宣

竹

竹りあ場てまけとさ枝と中竹の
かみ終はにのて成き後か
奉徳

同

園と寂

多花のまはれあけり
さやうにさうとあふり也
前経

世尊寺名

背雲桂

春乃野と立いんあれり
と成哉雲丹母まふむり行季

獨見

春月

ほり初うを成力にひつよ
誰よとりま
春乃平月實蹟

同

米橋

しんあのおさる物よあありあえ
夢ろ海なだた好る新の橋
公福

同

いぬはらうらけり
なうわてらうく入ぬり
瑞公業

同

松

浦るみとまえとせう
るねく年うら任り
松聖公福

春雪

山桜何くも七色をよんばのうれ
つらつらふくむ風やめをよ

小倉多 頰乃廣

月

あまのつらさかたきつらういじのあか
あけみちりくても月見れ 季種

栲印多

時雨

このあき庭は木とあまのゆり
そあそつくさしきくれはゆん季村

平松多時庸

海におうんをふんむとくさ
ほよあけはれをわひうわらさ

霧流

雲うらぬみねとくはぬる霧流踏
わらわら流はすきとけくして着

同

藤

さかたけの松うらのゆてはく藤花
さうひもあまの白影飛 基角

同

葛風

風あきなう、ねあき葛のうれ
夕暮うらぬ海はつ 基継

同

寄水

あまのつらさかたきつらういじのあか
あけみちりくても月見れ 季種

同

何花 氷よりあつこくはの花に
橘のちよとるものも川 墨福

苗少多

長松 冬をうつ松乃ちら葉のそけふ
しきりていそ川乃ち香直

竹四多

遠夕曇 ふうたのこもりし涼 伴弱山
うちきりし雲乃ち夕曇のそけふ

同

栽花 おろまんのいの花を種とて
二葉の標ごりける代若流

夜夕 ありし元かすりてしそへ
風花しりのちなきはつな 儼

同

花菊 神のさや見むら此山乃ち守
花乃ちち抱梅の室のひもし 儼

同

夜夜 ちわてみし月よはまはら
余花の秋をさしけりひもし 儼

同

女花 今小めそめ 枕う野乃ち分る海
わろしきかりし色をそへる 儼

更衣

夏衣をふらふらふらと
たきかへし
たきかへし
たきかへし
たきかへし
たきかへし
たきかへし
たきかへし
たきかへし
たきかへし

六修及

入あわらふみは月やあわの霜有廣

同

若山

春曙

積雲のわくわく
ふらふら
ふらふら
ふらふら
ふらふら
ふらふら
ふらふら
ふらふら
ふらふら
ふらふら

同

浦松岸の
障り
障り
障り
障り
障り
障り
障り
障り
障り
障り

在郷

常規

好むもの
さあ
さあ
さあ
さあ
さあ
さあ
さあ
さあ
さあ

同 後花園院沖全牙

竹園

いし
いし
いし
いし
いし
いし
いし
いし
いし
いし

同

様意

思ふ
思ふ
思ふ
思ふ
思ふ
思ふ
思ふ
思ふ
思ふ
思ふ

同

有乳山

津の
津の
津の
津の
津の
津の
津の
津の
津の
津の

同

荒花月

所をわき入る世を何処あき
摩訶不思議な妙夜月輪

同

初花

さらさら花さびつるをよむは
あはれ目くらむ初花ん 貞康

同

唐草

近枕 花あはれ枝まよひわらさば
花をばはらるる花のあき那房

同

空舟

流すくはるる舟うらをてみそ
流すくはるる舟うらをてみそ

同

恨舞衣

志せしうら思ひつるてと舞衣を
うら思ひつるてと舞衣を

同

白雲のふかきよきとみよ

かりせぬあふきのきほるるの 鶴

高松

梅のうらたけ袖ぬれしうら

春やせしうらおとらふや 藤

同 路

寄草花

うらたけの梅がすくはるる
うらたけの梅がすくはるる

送鳥花

けりきり也おんそまのたは
かりのちかきもくもく 在敷

堀川友

夕立

夕立のちかきもくもく
河のほとり山に雲の月塵

花園友

梅苑の香にうらみ
よみ入梅の真に山に實清

七條友

嶺頭鴈

明のちかきもくもく
ちかきもくもくもくもくもく

古つ芭

ちかきもくもくもくもくもく
みちかきもくもくもくもくもく

同

呼子鳥

呼子鳥
了物物松風が宿康

久世殿

湖月

似珠

湖月
珠のちかきもくもくもくもくもく

中川殿

花似雪

花似雪
ちかきもくもくもくもくもく

裏過ぎ季福

よみながらきくさうみわらわ
うまのこころをけしめ

千種殿有能

あまたたけらるる春の
ゆきかたけ花さうん

塩山海友

雪郭公
里あれて静も松も花も
かたけつしきもれもさうん

山石倉殿

閑山月
山石くさるる花のさうん
ちかきと海がふら松の松を 具起

松物春
まよひなきのやみさうん
まゆり幾代と松のさうん

倉橋友

寂翁夢
しるさうん松のさうん
鐘よりけしめ松のさうん

壬生官務殿

餘花
夏けく友乃るさうん
あつすおつ松のさうん

同

曉鳴
白さうん松のさうん
かとおよらるる鳴の聲のれ

石下花 山さくらさくらにほりに成りて
之移りあふる花も思ふ事さ

古河口友

霜埋

流雲

風はそつ指乃冬をねとありて
雲の如く移るは春の雲

同

五月

春をたつ月のうつろも
たがらり新枝の芽は春重

佐野本願

花浪

春霞千帆花は春の谷に
花の心なきことあり

山川乃あききせしやが
きつたは波のきく心より勝る

藤江友

歳言

有月あききせしやが
かりんは心より

島井山友

冬枕

はるきしと枕の上ふかき
わらわは心より

同

花

月乃あききせしやが
花の心より

近者及 舟波園住九歳而翰笔波入後人不知内也

五方衣云

近者及内全友筑博了

春のあまき海人さし心如也
予は流るるのちや如きよし若衆

連率

同 小の及

海と舟木元まや形ふし辰はき
二形くかそこ小とまきすり比長治

恨絶意

同 同

所をの程の恨と今乃のひに
と縁律を免れはかきつけ志穂後直

葛蒲

まきふふのまきあやめま
と毎枝船乃のに足り水信春

梅風

二條殿内 官務 類 元鳥丹及推庸

咲くも中水舟海にまきせは
いとまわ花や名乃梅あ枝後春

野旅

平四友 元鳥丹及推庸内元

帰るき旅老る鳥と申り坊て意
し流しとまきあやめあ白と珍春

首夏風

速水終心手

夏あつてとあ所ぬ花か白雲の
う海あつてに想思つあや病

干鳥

波とらるる流程の素波あ
おしあつて海ちる

親祐

まろやまのくはれす
あつとこいふたれ

同

卯花 宵はさわむし
社よりまはる卯花

同

右所開 名のみあつた
まはる卯花

同

浦社 神宮なる
まはる卯花

同

後取濱 ありまの
浪のあつた

梶井の仁

近窓 ちやうど
ありまの

同

夏草庭 ありまの
ありまの

同

梅花 浪のあつた
ありまの

同

夜旅

峯の雲影人のあしはれり枕
多とまやこのさうまなる寂胤

物法印方

聞部云

さあつて約るうかいを河を
さあつてげされ枕と梅かり豊胤

同

松雷

多へわらみさうり松枝わて
はらわ雷のつら成り常胤

同 幸胤

花匂

しんめふらぬらのほしあ
花のさうりちかふら神

庭苔

松の根うつらふの苔
すめり人さうりしつむる義後

同

春雑

香風うらふじきひらり
聖人かゝるくむ雑

同

里梅

鶯もつらひとちめら出
れしとけら梅のさうり雑

仁和寺後一雨下云

新花

花にさくみさうりあひに
花のさうりさうりはれ 舟理

同 真光院

松竹亭

今下りて又つゝあはせ世言乃
松よりまほしの境もまほしの

同 信長

落葉

さゆくつゝさよふのまよふは
あゝやうつらふちら葉ぬる心

同 善光院

經日旅

出くあゝ旅日較と、かろゆと
うゆふささ波まあつての定 落

同 木寺宮 延為廣

岩屋梅

ほちこれのまゝにむしげぬ風
まゝに色敷色うつれ裡しふ

雲風急

やまらわきよのけしきも
あまらうらゝ人若んあしの風

同

夏草深

あゝ草乃とそわねえとさく野
まゝにふさふさけふくまは道

龍護院方道僧

朝のやまのけしきも
あゝ草乃とそわねえとさく野

同 道見

あゝ草乃とそわねえとさく野
まゝにふさふさけふくまは道

秋とそら寺のうららかに母出の
ころ里のぬゆふとる

昭吉信友

立春暁

新乃まゆまにたれん様
り新なるふしじの道徳

同

秀玉色

みをつかたしみの露の恵雨
志の玉ちるふかき道勝

同

夕霞意

いふまぢんつらあは共の言の
さうりたぬのぬりつと物と豊意

山吹香

何一ぬふもあひて春の
に花はなる咲くはて道周

勝仙信友

朝

清き乃まき春のひの初風
をのしるやまき鶴 澄出

同

若王寺友

今川氏實清息

朝

清く結ぬらひの初風
のしるやまき鶴 澄出

實相院殿義尊

我が物に時由り庭の松

山花

山花さうりわぬしはよみん
花とそふちふ花乃志中自若

同

梅風

たう袖よりけりさきし梅風小
けりさきし梅風けりさきし

同

後朝恋

都とけりさきあはれあ
又移るる心神のうき冬首恋

同

摘葉業

叶と度かきし刻るるも
心見小くしはみ葉うれ覺圓

惜別恋

あやうくしうら間もあはれ
うけりし心小む別ち戻

巴備院御門跡

実勢

秋の場はふ破の雲色報いさ
あまうしうらめしき勢今も

同常尊

露

露の世を野をなつかし
ぬまうしうらめしき勢今も

安房 一葉陰

秋

秋のあまうしうらめしき勢
月乃よりあまうしうらめしき勢

同

述懐

すけいん世れかこくぬやいりん公
福免の麻濃たうしんぬらむは

同

余ちりゆてぬさむやとゆめ
しんぬらむとてつ音なるとんは勝

同

夏寺

君民の御法りあふまはれ
あふぬまに寺まことの大藤葉

同大藤葉

梅雨

あつれいばあつらふ月ぬら
あつれいばあつらふ月ぬら

松月幽

あつれいばあつらふ月ぬら
あつれいばあつらふ月ぬら

同東本寺分室上人

う地志まのあつらふ月ぬら
あつれいばあつらふ月ぬら

同松月幽

社頭花

咲みらふ木をまうつし春日野
花はあつらふ月ぬら

同

夕風

あつれいばあつらふ月ぬら
あつれいばあつらふ月ぬら

如是作

はくわふ以猶業久く夕く運草
すり冬馬子勢そゆ心は専

同一真福寺坊官

まの聖神の心をけり

いふふけりまの業不真

同まの聖神一徳

まのけりまのけりまのけり

あまのけりまのけりまのけり

同まの聖神一徳

山羅行やまのけりまのけり
まのけりまのけりまのけり

狂病

兵相

まのけりまのけりまのけり
まのけりまのけりまのけり

同

折菊

まのけりまのけりまのけり
まのけりまのけりまのけり

同

初鷹

まのけりまのけりまのけり
まのけりまのけりまのけり

同

まのけりまのけりまのけり
まのけりまのけりまのけり

同、

事平祝

くまはまを商やさめあはれ
りまう言と打とるひのまき立

同、

梅

あまのこふくは白ひき神の海から
きりし林はまのふかやうな

同 角寺連歌師

身乃世とねま枕とそとくそく

まじりき啼ひれき節のまき

同

不逢恋

鳥羽玉れあふり毛きぬく逢と

いづらりおしまきつらぬき

山と神乃まわひもあきこぬ波の

立ちあふふあはれと志かまき

同 若官社

見恋

あまの鏡さぬみろしあはれ見

くろの神のたまこぬり

同 土美日社

花遅

咲いてしかなとそ久しきあはれ

木乃めき花れあふみそ毛

同 本寺

芳水懐

ゆきしきあはれかしの神乃み

なまこしあはれまき

同二

葛仙人のさかすまの 宿の菊垣

同二

冥前竹のまきまきとて 母のまへ竹
うまのまきまきとて 母のまへ竹

同二

花 へある人母をせとるの
をのほろおはる花の 紀深

同二

為 麻を従くまきまきとて 柳の落るれ言

卯花

卯花の色をまきまきとて 月かげも
似目 くのりてまきまきとて 川の流るれ言

同二

木津のまきまきとて 柳の永後

同二

折梅 折梅のまきまきとて 柳の永後
野のまきまきとて 柳の永後

三井寺僧

絶世舞子

寿の面恋 久まきまきとて 柳の永後
くまきまきとて 柳の永後

春

春は毛の比がまの浦ら説
法をさつし神をゆかりのこ子真辨

積善信友

春雨

春を才本との積ぬかむるまじりや
かろ人の神あやゆき白 尊雅

定法友

櫻花

春風一まき人乃其のありて
あひらけ見ゆらぬ花のそら

西室友

山河

しるしと稱く風乃屋ら其のありて
えいしとあましのなる花のそら

山家

山にこそかろあな花のそら
まじりてまじりて花のそら

同

夏 津裳濯河

あまのそらすくともあつら 祐誠也
みよを川の水のそら

又友友

浦堂

見ゆら浦のあつら 風をそら
なつらあつら花のそら

大徳寺 法庵和名

大智

不智

いづれとあつらてのそら
とまじりてあつらてのそら

折柳橋

遠東只之情難分何更呼為情盡橋
自中改名為折柳任他誰恨一條

相國寺方橋院

淺始恋

うたへぬ恋のふくむくもやてり
あまのこころのこころも初戀等貴

同

戊寅

書之密

別後のふりまじりまぬわ
とふまじりまじりまぬわ

同 荏荏長老

戊寅試毫

昨雨後形玉物多銀隆佛種竺文傳
南産缺舌茂將變東帝宮也

都月

と見えぬあまの月
都の月もあまの月

東叡山大僧 正天海

了るに地をこころりはえま
しるしつとまらぬ

叡山元量書院

とらひるも初く計れ本の中
花をのつとぬをてん心

不新先院

初物

浅草生かゆふかきそ
二海くは海乃あつと

成方中レテ

弁寺佛地院友

野亭嵐

わづらひのけしき
すじのわづらひのけしき

岡持教

池泉冬

池泉のこぼれ
つるつるのこぼれ

大清信友

名山

名山のこぼれ
名山のこぼれ

真言宗

歳時集

遠くを思ふ
うしろを思ふ

客路

客路經過水又山
清影一庭閑

顯吉

鶴旅亭看月
断腸幾想像
當年放白鵝

前南禅寺大愚和尚

あつたつた
あつたつた

東福寺僧

蚊雷

閑説蚊雷
夜来殿
夜来殿



建仁寺僧

龍山賞雪

賞雪
胡風千里吹

東福

雲廟庭む

半寄半陰三月霞雲輿風袂弄芳鮮
我無礼幣捧前到花錦雨染神道春廟寄

醍醐僧

管

花雪のふつとよなる草一の
ふらふらとよるる心

柳脩寺官

海雨庭

神代らりともり一葉のまれば
空に久くはれぬ海ありて立 震

随心院

この葉とほりり神のまれば
よるの山志神やるまゝ一葉

泉寺金殿院白清

山家

いまは又雨を後をそよば
静ま ともじゆしれあやそよくは

八幡

草花

くまじゆしれあやそよくは
若秋 杖とよるる心

同新善坊

懐舊

かじゆしれあやそよくは
ひりゆとよるる心

同松花堂

快道

風花もよるる心
あやそよくは

女郎花

花のさきいづれに
せらるる心もあはれし

真如堂僧

舟行祝

舟のゆく道もさるる
あはれ舟の夜舟も

誓願寺安樂庵

入教

胸のふたこころ
旅のさるる舟の夜舟も

同本食上人

千粒の中より
あはれ舟の夜舟も

星山本食上人

かたもつこの心
あはれ舟の夜舟も

本満寺上人

舟のゆく道もさるる
あはれ舟の夜舟も

北野 徳勝院

花のさきいづれに
あはれ舟の夜舟も

月

舟のゆく道もさるる
あはれ舟の夜舟も

を源しをちきはかたよ比乃水落

松樂寺丈

常理竹

元可ぬらうしゆりぬれきふ
うはもれてうらぬは是竹覺阿

時宗

馬駒

馬代は伊さみらのまき成光
けうれ駒乃うきまきふ其阿

栲炭

リをそわ栲炭はひてし
まう移乃方の克成名 栲

中寄相子
かまことま
まぐくくえ
経言やうん

老をひら栲乃けは為察はし包

秋夜

木の火のき記はひめい
さにりししきまきまぬる 燭

松の上人 可又世

暮春

くさげうり敷きうらふ 弁たえの
栲もやうらふまの書は如盤

和奇四天王の内 吉田兼好

大、乃一、小、か、ふ、と、や、い、ひ、ひ、え、乃、花
や、この、い、ま、ま、小、春、を、と、り、好、よ

同

いほふくしにまふまふいほふくしにまふ
まふくしにまふまふいほふくしにまふ

同

着真

いほふくしにまふまふいほふくしにまふ
まふくしにまふまふいほふくしにまふ

同

預阿

いほふくしにまふまふいほふくしにまふ
まふくしにまふまふいほふくしにまふ

連歌京道

いほふくしにまふまふいほふくしにまふ
まふくしにまふまふいほふくしにまふ

六角堂

いほふくしにまふまふいほふくしにまふ
まふくしにまふまふいほふくしにまふ

宗祇執筆

待窓

いほふくしにまふまふいほふくしにまふ
まふくしにまふまふいほふくしにまふ

連歌京道兼歌

いほふくしにまふまふいほふくしにまふ
まふくしにまふまふいほふくしにまふ

兼歌書流

いほふくしにまふまふいほふくしにまふ
まふくしにまふまふいほふくしにまふ

侍月

杜鵑

都を納めぬはあつと久かこも
月乃内たしぬ音心ゆれ 遠

同

隠出

行くぬらむらむとむきとひき
川とい津う結さしゆん 森

和奇所法下

題 後赤河門院

芳玉志

わくくさくさりれ玉うもと替の
二つうそくくもあむらうあ喜

同 明芳考常徳院

新續古今隱名作者

癒地儀

あつひ何中かうとふわさう
つさまうんれあわんれあう 難

秋夕

月をいふ秋のよと葉は露のよ
もやまのよと木林の夕言書意

同 竟和

藤原

ひさしとらあふんうわい
野うう草まうらう通あひ

同

金叶の三守ふそんは花梅乃計并此
白鳥 乃うあまうらうあう忘る懐紙 穢

同

七夕

あつの河清りぬり一とせの
うらむもやあやあふの志は事情

松上藤

了秩母草茂まらぬ松上藤
浪うたふらふとあはれし人盡

徹書記

山中八

友衣ききもりのあはれ袖
縁糸のうらみはくせ

同朋身

山花

葛城をわたりて
あはれもやゆらん

同

江舟サ

難波の舟あはれ舟舟
舟のうらみはくせ

同

江舟の舟あはれ舟舟
舟のうらみはくせ

同朋身

山村燈

や油あはれなほの燈
あはれもやゆらん

同

曉月

あはれもやゆらん
あはれもやゆらん

同

夕夕

風うらみはくせ
あはれもやゆらん

新踏歌

胡蝶そのあまのなほかびらて
うらたけ秋をまじり花を春

同 新入源氏物語と様の巻に書きたる元ノ牡丹花笛古 花にまじりて折と消しあふのあ

恨糸

くろくろなめりうらたけはま
ひのまじりあはれはま

あまのまじりうらたけはま
うらたけとまじりあはれはま

あまのまじりうらたけはま
うらたけとまじりあはれはま

うらたけとまじりあはれはま
あまのまじりうらたけはま

杖遊土安穩天人常
丸満相當三回景作歌
一章 逆奉祈護像
佛縁也

月をうらたけのまじりあはれはま
うらたけとまじりあはれはま

梅董神

あまのまじりうらたけはま
うらたけとまじりあはれはま

野宿

あまのまじりうらたけはま
うらたけとまじりあはれはま

齊野志

しよ祝まおつ時今ふりまて
思ひの露れどぬりまし友理

病深

しりし野れまてまて病危まをん

山葉

山の木葉の冬よりしりし

人病志

あまふさくらし地地より唯
つふりあふたの田新

互恨

りゆあふたれまてひんれ後
まれ志る乃あつる趣り

唐新

まをしつるよのまてまて筑記
あましつるよのまてまて筑記

何方

いほまやも花乃盛ふひあや
木のしつるあやまてまて宗新

郭

まて神りゆくしあを城まてまて
中やよりす家山ほくあ守国桂

花漸盛

まて同乃あまてまてまて花
まてまてあまてあまて

同
風を吹くはゆりの漂とさる舟は
くまの物もあもえり事ぬさす仍

同
心欲流人の所凍花は宿神

同
寺にてあし見さるるを初三雪 三障

同
心は寺あし見さるるを初三雪
まの

同
風乃はと木葉池の干は哉
終尚

同
元日見やこまきまろくまき乃春さ糸を後

同
方移くてあは家よ杉くじ平抱ふ
絲さみくたはる月宮はを案

同
浅茅露
あつくせらゆゆのあはれ
ひらりしは浅茅出は露 為興

永日 入わひ乃輝めつ とき目か幾

同

ちふ花乃や集れふしの美成
やめやすむ百思あふむ見

同

春多しふれらあれあはれ
香多しふれらあれあはれ

同

はう燈かやう息々 祇乃花
の思 昌程

同

寛永三年 九月

来りまふりなる人知く為殿昌程

同

霜のむしりまふり乃朝日
昌通

同

思花 昔ぬきさ 落しありて地ひき
花を若木とて口下流り来書殿

山崎俳諧師 犬筑波作者

待戀

あふれはふらふらふらふら
まじりておろしきふらふらふら

首々風

四々々々々々々々々々々々

々々

因 氏交はつる

山

々々々々々々々々々々々々々々

同刊の女補之は 佐竹の舞也

遠尋

山祀

々々々々々々々々々々々々々々

藤井の 佐竹の舞上人新筑波入

寒草

々々々々々々々々々々々々々々

考祐

々々々々々々々々々々々々々々

本備

羊鏡

他々々々々々々々々々々々々々

赤部佐馬守 頰乃廣

旅

々々々々々々々々々々々々々々

山名

時面

々々々々々々々々々々々々々々

寄床志

鳥かきもつゝ寝たきりの床のうよ
ふもてや幸らむりつゝもやぶや

同

たての財ぬらうしはらうそくの
そげもけはなる矢とをそたれ

同

守紀とある銭つら母のあはれ
かた積んとてまははははあめ

同

かたつら考つゝもたははははは
とれつゝのあはれもあはれ

同

神にやじふ卯月を祈を

せん花んまぬ人乃あはまは 政園

同

蚊美

東乃たはあひりてははははは
かを祈り願ひまぬ蚊のあはれ

同

寝芝梅

あはれなはははははははははは
うかきやあはははははははは

同

閑

あはれなはははははははははは
あはらあははははははははは

同 楊花恋

煙とまじり星の逢とてあそび
く終るる中し神のさへ浪 藤原

同 藤原正房 関根抄作者

待夕

灯をそほぬ重のうらみれうぬり
ゆれきり流星うつる影 言

同 三斎

山雲のふもよほしはきり
くさるるよは葉をけりて那

同 内

淨磨山

いさかきくわのさりかきとほそむ
いさかきくわのさりかきとほそむ 白紙

おるまはけきとるやまの森郭と
あそびのうらみれうらみ 三言

武田四郎

夏水

おのこ乃と流すまは流すは
あそび流すまは流すまは流す 白紙

未抄

新緑雨

一系らふ木と流すまは流すまは
つゆれぬそふ村のさへ風 満政

同 満祐抄

神系

すまは流すまは流すまは流す
あそび流すまは流すまは流す

霧

河毎て下はる言の嵐のりり
霧のあはるや小瀬山満景

同

新編城入

月影

泊瀬の川のほとり
月影白きよ枯れ葉の足跡

四川幸おあ

畧雑

この比の息をかすのよを
きしりたりくあを思の分里路程

江州幸おあ

山家

しむ店と河のほとり
名流のそとに化つたあふ審

補

寒月

あつた年元とあてらるし
月や猿の影に人あふ

同

野條

あつた年元とあてらるし
志の向はる影に人あふ

佐々木京極

散脚

行通の志の向はる影に
あつた年元とあてらるし

胡合

む

胸中へあつた年元とあてらるし
思はるあつた年元とあてらるし

古郷

草枕着流風をよめるに
さしほららふる志ありとて興國

同 大宮月

燧火

可憐道方秋のらるる火いかにひ
祿元此座其の信ありとてし備

大宮友

美伏乃人々より此柄とすあつる人
花のりありとて梅乃下風 傲智

陶安房ら友

曉眠

高亮
多乃善きまゝのこゝろに
たう夜はあはれとて寝ておとす

同 五原友

田家雨

秋の白くはしとて吹風や
おぬぬとく水くぬく

大宮友 内主教師

法

こゝろに世にぬきとて
志もあはれとて人整

仁保大房ら友

題 柳原資定

遠心

かみゆるはとてしるる
枯ふるも涼しとて初風

牧伯著身友

子鳥

うらひは神をあらとて
たうとておの神をあらとて

想心遊友

右字云

山深一板
流ありき

青景越後守友

心判しるりのてきりて
もきりていふもあつたるるる

初郭公

世にのこすことし終つた
こころをいふことか
後著

内藤友

河

水も花のよにありあつた
きりていふことか
陸和

同

産

山のうきに晴くは出る日
きりていふことか
宝島

同

夜覚

時由

夜覚のいふことか
時由のいふことか
ねるるる

中長入友

延柳茶室友

厚柳

きりていふことか
きりていふことか
ねるるる

同

初鷹

きりていふことか
月と柳のきりていふことか

阿波守友

延柳茶室友

松油

松油のきりていふことか
あきりていふことか
ねるるる

内藤 後 類 内 後 笈 物 後 道

ふじ

五月まはらに祓をいふ来も花
雪ふ海雲梅の小舞のりくも階

大内 後 内 連 善 師

茅拍燕

たのむはる人をは舞のひのハ
うらむも風はよとく身は甘野

松原 後

新 筑 師 作者

龍水

とふ布乃ぬきと花を待て花れ
けさたてかり遊のちも宗待

竹中 兵 庫 後

狂狂鶏

神は物あはれか野のりやわは
うきくも床の秋は風 興國

同

人事

身はうな世乃らまはあはれん
さぬくをりしたのる元成 澄亂

細見 河 内 善 友

岩山 氏 子 補 友

寒秋

浦らるるいさよあけなてあ

風千鳥

書者も風はよとく身は甘野

秋 卷 友

青山窓

ちちひらふあはれひはるも花
はくらのとらふさるりねん元頼

とく病を後るる人より終り

まじりけり森の志のん小歳

丹波金剛大蔵後

稗

一村のとりれあそびとくしりけり
とくき枝のまんのくく 素

菅原義深後

山雪

と物んれまら又雪よふを
おろけかそひの松原秀後

同

在明月

雲霧のあさひるあ明の
月よむにえは秋凡 秀後

聖別天台宗流法中

雪中

雑音

少人のと朝のふもやうん
ワムとてしゆまのるあは

社風歌家守後

雪の玉

夕暮るる花よあつきの
吹くもやや雪は静し象

上野氏詠草浦後

雪の蘆

おとゆりりあはれあ程
けりしゆく同やと也指

本居三之助後

春雨

まじりあはれあつきの
やそとあはれあつきの

大江無原大浦友

怨恋

数日を過せぬ思ひにたゞしむるもあらず
何人かぞうり神あはれきりあはれ

田原瓦俵舟友

雲間

杖ささけし雲間をさす雲の影

初鷹

雲霧の上今より鷹の影の類

土岐立市舟友

初鷹

春のまにまにさすかぎり
るに杖杖とてさするるる

大園越後舟友

互道

かあひつらさすもその中垣か
るをさすもその中垣か

地西市舟友

梅

あいつのさすもその中垣か
むらさきもその中垣か

岩山舟友

初花

うらみとさすもその中垣か
今年の初花はついでに

江平舟舟舟友

大地儀

海心乃海さすもその中垣か
津の風や梅の影はさすも

半井舟舟舟友

あつたさすもその中垣か
あつたさすもその中垣か

上戸及 和州住

右所

喜の初やまよめひん影志

春月みまれひつみかたまじらん遠志

惟宗友

頭 後小松院

葵

古縁をば人こころ神よめふくれ
日影のふれあひのここの 葵吉

東野州

あつ月乃月しも今よりぬ松のこ
いとよとわふすたはまじらじらん
後

同所一家

寂庵

ウ乃祿の雪も時終る祿言月
あう形かたれ下ぬ志くけり
幽

山見光寺住持

田家

人とあむたを田のかりかむあきん
とやうあむたをのりそ 常備

豊後住持

山家

心くしうしむし対りうれ家や
そやこのられ杉の下庵 筑秋

多賀寺住持

時を海よりあふ人よつを ちりり
ちりりあふいこよのれねん

和泉寺住持

奇光逢

世の中くろきぬりあはれん
花の影くろきぬりあはれん

蓮

ちんて世の人志公をまじりて
にこりふきぬ花れうらむは

伊豆陸奥号後

郭

とまじりて
かきかへん

同詩息

月

まらうらうら
いりやうら

海津号

みねこのはらふ

あやむね

一利号

ふねの煉れあはれ
輝元

岡本号

まきのの

のま

吳山天歳

代簡一鶴高橋
名因

本末之南号

えん

し

年

宮古守に書す
くわにかさくねあるのらまけりも 齋

同

はらちのみの
うらやまのうらやま

筆

神よふらぬ身は狂くも
りあふる魚んとたげやわらわら

徳
玄は軍内梅斬

くふらぬ身は狂くも
らあはれ誰かみうらやま

鳥

町

うらやまの風色
あふらぬ身は狂くも

寺

楓
くわにかさくねあるのらまけりも

中

浮
うらやまの風色
あふらぬ身は狂くも

寺

常
うらやまの風色
あふらぬ身は狂くも

田リ〜とサリ冬〜い〜る迄〜と〜
い〜る〜ふ〜く〜後〜る〜人

梅風 梅のそ風ち〜さぬほ〜の〜
め〜い〜と〜る〜宿〜れ〜

板倉仔頓字及因元

思〜れ〜お〜母〜持〜も〜物〜を〜あ〜ま〜
お〜母〜す〜こ〜の〜思〜は〜る

秋冬 花〜に〜色〜の〜き〜ら〜庭〜の〜ま〜れ
花〜に〜色〜の〜き〜ら〜庭〜の〜ま〜れ

數 百三拾六

數 六百拾六

百五拾二筆 墨付百八枚

人之分板列〜は〜又〜貝利〜は〜
字

友不〜類〜者〜志〜令〜授〜合〜者
筆者 稱硯子墨

安永四年 仲秋 日開板倉倫書屋



本有

京 二條御書町倫

坂 塀筋平野町

江 南傳馬町

